

シリーズ (その7)

分別のその先は？

分別収集された資源物はリサイクルされます

ご家庭で分別していただいた「ごみ」がどのようにリサイクルされているか、シリーズで紹介しています。

今回は **金属類** です。

家庭から出る金属類は、さまざまな材質の品物が出されます。高尾クリーンセンターに搬入された金属類は、センター職員の手作業により、アルミ、ステンレス、銅など20種類に細かく分けていきます。

選別し終えた金属類は、高尾クリーンセンターに設置している破砕機という大型機械で細かくした後、磁石を使って鉄類を取り出します。こうしてそれぞれの区分に分別された金属は、新たな原料として、鉄筋などさまざまな用途に使用されています。

資源の多くを輸入に頼っている日本では、ほとんどの金属は貴重な資源として再利用されています。市で金属類を材質ごとに仕分けをすることで、付加



◀金属類の分別作業を行う高尾クリーンセンターの職員。

価値が生まれ、リサイクル率向上や経費抑制に役立っています。

金属類のその先は・・・

金属の原料などに再生します。

分別のポイント

- ・金属とプラスチックの混合物は金属類になります。
- ・平成31年4月からスプレー缶、ライター、ガス缶は埋立ごみとなりました。使い切った後、中の見える袋に小分けしてから市の指定袋に入れてください。

問い合わせ 環境政策課 ☎ 23-3101



あさもや 「暁靄」(1947年 油彩)

©加納莞菴 市加納美術館蔵

解説 莞菴は小鳥などの小動物を描くのが得意でした。第1回島根洋画展出品作。

お知らせ 市加納美術館の所蔵品の中から彫刻作品を和鋼博物館でミニ展示中。詳しくは、市加納美術館公式フェイスブックページ(右のQRコード)をご覧ください。



1945年(昭和20年)8月に戦争が終わると、加納莞菴は家族とともに故郷である布部村(現在の安来市広瀬町布部)に京城(今の韓国ソウル)から引き上げてきましたが、制作した絵画を持ち帰ることはできませんでした。

島根に帰った加納は松江地方海軍人事部に勤めながら、絵画の制作に本格的に取りかかりました。同年の12月には、島根洋画展覧会を開催し出品。1946年(昭和21年)には伯太町出身の岩佐新らと島根洋画会を結成し、1947年(昭和22年)

には個展を開いていました。今回ご紹介する絵は1947年の作品「暁靄」です。早春の朝、老木に咲いた梅の花と愛らしい雀たちの姿は、復興に向かう時代の明るさや希望を感じさせます。

一方、松江地方海軍人事部では復員軍人からの聞き取り調査などの仕事をしていました。そこで出会ったのが、フィリピンのマニラから引き上げてきた古瀬貴季元海軍少将でした。この出会いが、加納の恒久平和を求める活動のきっかけとなったのでした。

安来市加納美術館だより ☎ 36-0880
加納莞菴 人と作品③
「戦争が終わって」

リニューアル工事のため
令和3年
6月中旬
まで休館中

